

平成21年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成20年11月13日

上場会社名 スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社

上場取引所 大

コード番号 2712 URL <http://www.starbucks.co.jp>代表者 (役職名) 代表取締役最高経営責任者(CEO) (氏名) マリア・M・M・コラーレス
兼最高執行責任者(COO)問合せ先責任者 (役職名) ファイナンス&アドミニストレーション
統括オフィサー

(氏名) 北川 徹

TEL 03-5412-7481

四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	47,979	—	2,842	—	2,968	—	1,546	—
20年3月期第2四半期	44,661	17.3	3,903	58.5	3,958	59.0	2,094	64.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	1,085.41	1,076.03
20年3月期第2四半期	1,473.09	1,455.77

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	42,043	28,530	67.9	20,027.23
20年3月期	42,960	27,171	63.2	19,079.55

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 28,530百万円 20年3月期 27,171百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
(基準日)	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	300.00	300.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	300.00	300.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	96,700	6.6	5,000	△25.5	5,100	△26.0	2,500	△29.6	1,754.89

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(2)四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 1,424,594株 20年3月期 1,424,111株

② 期末自己株式 21年3月期第2四半期 一株 20年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年3月期第2四半期 1,424,419株 20年3月期第2四半期 1,421,827株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記の業績予想につきましては、平成20年5月15日に公表いたしました内容から変更しております。詳細につきましては、平成20年11月13日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を内包しております。したがって、個人消費の動向や経済環境などの諸要因の変化により、実際の業績等は記載内容と異なる可能性があることを予めご承知おきください。

・当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、原油・原材料価格の高騰や米国発の金融不安の影響等によって企業業績が悪化するとともに、日用品の値上げや、雇用や所得への先行き不透明感から個人消費の抑制傾向も高まる等、景気の後退色が鮮明になってまいりました。また、当社が属する スペシャルティ コーヒー 市場におきましては、出店立地や商品開発における厳しい競争が続いております。このような状況の下、当社は次のような事業展開を行ないました。

当第2四半期累計期間に販売した主な商品として、ビバレッジ（ドリンク）では、スターバックスのコーヒーをジェリーとしてお楽しみいただける「コーヒー ジェリー フラペチーノ®」を発売し、大変ご好評いただきました。さらに、チョコレート風味の「ダーク モカ フラペチーノ®」、果汁とアイ스티ーをブレンドした「ザクロ ピーチ フラペチーノ®」、「マンゴー パッション フルーツ フラペチーノ®」等を販売し、好調に推移しました。

フードでは、コーヒーと共に楽しみいただける商品をより拡充し、「洋梨のバイクドケーキ」、「チーズスフレ」、米粉を使用した「ロールケーキ」等がご好評いただきました。また、9月より、イタリアの伝統的なパン「フィローネ」を使用した商品群を投入して既存のホットサンドイッチを一新し、大変ご好評いただいております。

コーヒー豆では、アイスコーヒー向けの「アイスコーヒーブレンド」を発売し、季節に合わせたコーヒーの楽しみ方をご提案しました。MD商品では、タンブラー群が引き続き好調に推移し、環境に配慮したエコバッグ等もご好評いただきました。

店舗展開においては、出店立地の選別をより強化しつつ、41店舗の新規出店（うちライセンス5店舗）、1店舗の退店を行った結果、当第2四半期累計期間末における店舗数は816店舗（うちライセンス27店舗）となりました。

一方、様々なコスト上昇に対処すべく、7月16日より、定番商品を中心に、ビバレッジについて10～30円、一部のコーヒー豆について100円の価格改定を行ないました。

チルドカップコーヒー「スターバックス ディスカバリーズ®」においては、9月に「京都（抹茶ラテ）」を新しくラインナップに加え、ブランド認知の向上に貢献しました。本事業の主体はサントリー株式会社と米国スターバックスですが、当社は米国スターバックスと別途契約を結び、サービスフィーを享受しております。

以上のような活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は47,979百万円（前年同期比7.4%増）となりました。7月に実施した価格改定等に伴い客単価が上昇した一方、取引件数の伸び悩みが続いたことにより、既存店売上高は対前年同期比97.7%にとどまりましたが、継続的な新規出店により全体では増収となりました。

月別の既存店対前年同期比は以下の通りです。

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	第2四半期累計
既存店 対前年同比	売上高	97.3%	97.9%	95.4%	104.2%	94.1%	98.0%	97.7%
	取引件数	95.9%	97.3%	94.0%	101.0%	91.5%	94.0%	95.5%
	客単価	101.4%	100.6%	101.5%	103.2%	102.9%	104.2%	102.3%

売上総利益は33,815百万円（同5.0%増）、売上総利益率は70.5%（同1.6ポイント減）となりました。7月に実施した価格改定の効果による改善がみられたものの、牛乳・乳製品や小麦粉等の原材料価格の上昇並びに商品の売上構成比の変化等により、売上総利益率は前年値を下回りました。

営業利益は2,842百万円（同27.2%減）となりました。これはコスト管理の徹底と業務効率化による経費節減に引き続き努めたものの、既存店売上高の減少等により、販売費及び一般管理費率が64.6%（同1.2ポイント増）となったことによりです。

経常利益は2,968百万円（同25.0%減）、四半期純利益は1,546百万円（同26.2%減）となりました。

なお、前年同期比は参考として記載しております。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて917百万円減少して42,043百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べて2,241百万円減少いたしました。これは主に店舗増加に伴う設備投資や借入金返済のため、現金及び預金が1,531百万円減少したことによるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べて1,324百万円増加いたしました。これは主に店舗の新規出店や改修のための投資により有形固定資産が710百万円、差入保証金が580百万円増加したことによるものです。

流動負債、固定負債は、前事業年度末に比べて2,276百万円減少いたしました。これは、主に法人税等の支払、長期借入金の返済等によるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べて2,530百万円減少し、2,519百万円となりました。

営業活動による資金の増加は、2,125百万円(前年同期比1,605百万円減)となりました。これは、主に法人税等の増加があったものの、税引前四半期純利益や減価償却費の増加によるものです。

投資活動による資金の減少は、3,293百万円(同838百万円増)となりました。これは、主に新規出店、既存店の改修を主目的とする有形固定資産の取得による支出2,416百万円、保証金の差入による支出705百万円によるものです。

財務活動による資金の減少は、1,361百万円(同736百万円増)となりました。これは、主に長期借入金の返済と配当金の支払によるものです。

3. 業績予想に関する定性的情報

経営環境は厳しさを増しており、金融不安の増大を背景として、第3四半期以降も更に悪化することが予想されます。このような状況の下、通期の業績見通しにつきましては、当初予想値を下回ることを見込んでおります。

通期の業績見通しは、売上高96,700百万円(前年同期比6.6%増)、営業利益5,000百万円(同25.5%減)、経常利益5,100百万円(同26.0%減)、当期純利益2,500百万円(同29.6%減)に修正いたします。

詳細につきましては、平成20年11月13日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定する方法としております。

② たな卸資産の評価方法

たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③ 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理)

① 税金費用

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

② たな卸資産の評価に関する会計基準の適用

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、月次総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。この変更に伴う損益に与える影響はありません。

5. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位: 千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,519,404	4,050,767
売掛金	3,084,316	3,081,041
有価証券	—	999,095
商品	934,883	894,470
原材料	1,330,181	935,735
その他	2,960,145	3,109,567
貸倒引当金	△23,412	△23,745
流動資産合計	10,805,518	13,046,932
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	8,756,967	8,426,546
その他 (純額)	4,101,930	3,721,505
有形固定資産合計	12,858,898	12,148,052
無形固定資産	1,308,762	1,230,587
投資その他の資産		
差入保証金	15,777,469	15,196,512
その他	1,374,441	1,417,205
貸倒引当金	△81,639	△78,832
投資その他の資産合計	17,070,271	16,534,884
固定資産合計	31,237,932	29,913,524
資産合計	42,043,450	42,960,456
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,542,736	2,270,831
1年内返済予定の長期借入金	1,367,000	2,176,000
未払法人税等	1,552,267	1,803,862
賞与引当金	21,665	—
その他	7,144,371	8,067,138
流動負債合計	12,628,040	14,317,831
固定負債		
長期借入金	522,500	664,000
役員退職慰労引当金	16,416	269,081
その他	345,826	538,152
固定負債合計	884,742	1,471,233
負債合計	13,512,783	15,789,065
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,362,192	8,356,414
資本剰余金	10,937,252	10,931,474
利益剰余金	9,509,424	8,390,585
株主資本合計	28,808,869	27,678,474
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△278,201	△507,083
評価・換算差額等合計	△278,201	△507,083
純資産合計	28,530,667	27,171,390
負債純資産合計	42,043,450	42,960,456

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位: 千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	47,979,614
売上原価	14,164,152
売上総利益	33,815,461
販売費及び一般管理費	30,973,390
営業利益	2,842,071
営業外収益	
受取利息	5,367
為替差益	42,029
プリペイドカード失効益	55,841
その他	42,784
営業外収益合計	146,022
営業外費用	
支払利息	16,295
その他	3,242
営業外費用合計	19,538
経常利益	2,968,555
特別損失	
減損損失	52,688
固定資産除却損	27,560
その他	6,205
特別損失合計	86,455
税引前四半期純利益	2,882,099
法人税等	1,336,027
四半期純利益	1,546,072

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	2,882,099
減価償却費	1,685,471
減損損失	52,688
引当金の増減額 (△は減少)	△228,526
受取利息及び受取配当金	△5,367
支払利息	16,295
為替差損益 (△は益)	△579
有形固定資産除却損	28,661
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,275
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△434,858
仕入債務の増減額 (△は減少)	271,905
その他	△535,547
小計	3,728,967
利息及び配当金の受取額	5,367
利息の支払額	△19,161
法人税等の支払額	△1,589,944
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,125,229
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△2,416,486
無形固定資産の取得による支出	△312,680
差入保証金の差入による支出	△705,185
差入保証金の回収による収入	100,076
その他	40,420
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,293,856
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△950,500
株式の発行による収入	11,555
配当金の支払額	△422,888
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,361,832
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,530,458
現金及び現金同等物の期首残高	5,049,862
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,519,404

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間損益計算書

区分	前中間会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)		
	金額 (千円)		百分比 (%)
I 売上高		44,661,629	100.0
II 売上原価		12,457,098	27.9
売上総利益		32,204,530	72.1
III 販売費及び一般管理費		28,300,805	63.4
営業利益		3,903,725	8.7
IV 営業外収益		118,520	0.3
V 営業外費用		63,884	0.1
経常利益		3,958,360	8.9
VI 特別損失		158,896	0.4
税引前中間純利益		3,799,464	8.5
法人税、住民税及び事業税	1,714,951		
法人税等調整額	△9,961	1,704,989	3.8
中間純利益		2,094,474	4.7

(2) 中間キャッシュ・フロー計算書

	前中間会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	3,799,464
減価償却費	1,383,640
貸倒引当金の減少額	△835
賞与引当金の減少額	△59,333
役員退職慰労引当金の増加額	874
受取利息及び受取配当金	△6,153
支払利息	24,422
為替差損益	88
有形固定資産除却損	51,321
減損損失	102,154
売上債権の増加額	△215,732
たな卸資産の増加額	△96,421
前渡金の増加額	△15,207
その他資産の増加額	△148,186
仕入債務の増加額	133,402
未払金の減少額	△762,744
未払消費税等の増加額	28,553
その他負債の増加額	1,090,805
小計	5,310,113
利息及び配当金の受取額	6,153
利息の支払額	△25,737
法人税等の支払額	△1,560,180
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,730,349
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の償還による収入	499,351
有形固定資産の取得による支出	△2,333,416
無形固定資産の取得による支出	△81,793
保証金等の差入による支出	△682,862
保証金等の返還による収入	115,149
その他	28,075
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,455,494

	前中間会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額（千円）
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△350,500
株式の発行による収入	9,983
配当金の支払額	△284,322
財務活動によるキャッシュ・フロー	△624,839
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	0
Ⅴ 現金及び現金同等物の増加額	650,015
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	4,669,379
Ⅶ 現金及び現金同等物の中間期末残高	5,319,394

6. その他の情報

（1）生産、受注及び販売の状況

販売実績

当事業年度の販売実績を品目別に示すと次のとおりであります。

品目	当第2四半期累計期間 自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日		
	売上高(千円)	売上構成比(%)	前年同期比(%)
店舗販売			
ビバレッジ	35,610,114	74.2	105.9
ペストリー	7,814,718	16.3	109.4
コーヒー豆	1,632,321	3.4	107.3
コーヒー器具等	1,981,632	4.1	121.1
店舗販売計	47,038,787	98.0	107.1
その他	940,826	2.0	129.2
合計	47,979,614	100.0	107.4

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。